

1 章 沿革・地理

1 沿革

● 先史時代

本県最古の遺跡は約2万年前(旧石器時代後期)の東通村物見台遺跡である。付近からはナウマンゾウ、オオツノジカ、ヒグマ、トラなどの化石骨が発見されている。人々は、おもに大型獣を追いながら転々と移動する生活を続けていた。この時期は氷河期にあたるが、1万8千年前頃から寒さは徐々に和らぎ、1万5千年前頃には、蟹田町大平山元Ⅱ・Ⅲ遺跡のように、旧石器が大量に出土する遺跡も現れた。1万2千年前の大平山元Ⅰ遺跡からは、日本最古級の土器も出土している。縄文時代の始まりである。

縄文時代は、1万2千年前から2千3百年前までの約1万年間続いた。草創期(1万2千年前～9千年前)、早期(9千年前～6千年前)、前期(6千年前～5千年前)、中期(5千年前～4千年前)、後期(4千年前～3千年前)、晩期(3千年前～2千3百年前)の6期に分けられている。気候も地形も現在とほぼ同じになり、小動物が増えた。弓矢の使用が始まり、さまざまな土器が製作された。人々は堅穴住居に住み、ムラを作って生活するようになった。本県には各時期とも大きな遺跡が多く、「縄文文化の宝庫」と言われている。前期前半から中期末にかけて栄えた縄文の大集落・青森市三内丸山遺跡をはじめとして、森田村石神遺跡や天間林村二ツ森貝塚、後期の弘前市十腰内遺跡・青森市小牧野遺跡・六ヶ所村大石平遺跡、晩期の木造町亀ヶ岡遺跡・八戸市是川中居遺跡などがある。

続く弥生時代は2千3百年前から1千7百年前までで、水田稲作農業が行われるようになった。弘前市砂沢遺跡や田舎館村垂柳遺跡では、北限の水田跡が発見されている。この時期の青森県などの東北北部では、弥生文化の影響を受けた生活文化と、続縄文と呼ぶ縄文時代からの生活文化が共存している。

● 古 代

古墳時代は1千7百年前から1千3百年前までで、西日本を中心に統一的な国家が成立し、大きな前方後円墳がさかんに築造された。天間林村森ヶ沢遺跡で発見された土壌墓の出土遺物の中には北海道系の土器とともに東北南部のものも含まれている。八戸市鹿島沢・丹後平、下田町阿光坊、尾上町原などからは終末期の群集墳墓が見られ、西暦600年代中頃から700年代にかけて南からの文化が伝わったと考えられる。

奈良・平安時代になると集落も増え、東北全体がほぼ同じ文化圏に入った。この時期の文書資料が非常に少ないため詳しくは知り得ないが、本県は律令国家体制の外にあり、「みちのく」と呼ばれる地域に属していた。西暦900年代には鱈ヶ沢壱沢遺跡周辺で製鉄が行われ、五所川原市前田野目遺跡では須恵器が生産されていた。これらは北海道にまで流通している。近年、浪岡町高屋敷遺跡で堀と土塁に囲まれた平安時代末の集落が発見され、注目を集めている。

● 中 世

この時期も文書資料が少ないが、鎌倉時代の本県は執権北条氏の得宗領(直轄地)だったことは疑いない。

津軽地方では曾我氏や安藤氏が、糠部地方(のちの南部地方)では三浦氏などが地頭代に任命され、北条氏に代わって現地支配を行った。とくに安藤氏は「蝦夷管領」という称号を与えられ、津軽半島の十三湊(市浦村)を本拠地として、下北半島を含む広い地域を勢力下においた。

室町時代には、南朝方の将である南部氏が甲州から糠部地方に下向してきた。南部氏は曾我氏を討ち、一族の内紛で弱体化した安藤氏を追放して、戦国期までには津軽一円をも支配するようになった。しかし戦国後期には、南部氏の家臣である津軽為信が勢力を伸ばし、津軽地方を切り取って南部氏からの独立を果たした。この両氏が天下を統一した豊臣秀吉から朱印状を交付され、近世大名として認定されたのである。

南部氏は、江戸時代前半に本県三戸から岩手県盛岡へと本拠地を移した。

● 近 世

江戸時代を通じて、本県の日本海側は津軽家弘前藩（当初4万5千石）により、太平洋側は南部家盛岡藩（当初10万石）及びその分家である八戸藩（2万石）により支配された。両者のもとでそれぞれ産業・交通・学問が発達し、「津軽人氣質」「南部人氣質」のことばに象徴される独自の地方文化が興隆した。

本県は蝦夷地と本州の結節点にあったことから、江戸後期以降は、弘前藩・盛岡藩ともに蝦夷地警備を命じられた。その功で弘前藩は10万石・盛岡藩は20万石に昇格し、さらに弘前藩の分家である黒石藩（1万石）が成立した。

● 近 代

明治維新後、盛岡藩は13万石に減封された。さらに南部領内には分家の七戸藩（1万石）と、会津から転封された斗南藩（3万石）が成立した。これらの藩は明治4年7月14日の廃藩置県でそのまま県となり、同年9月4日に統合されて弘前県となった。さらに9月23日には県庁が弘前から青森に移され、ここに青森県が誕生した。

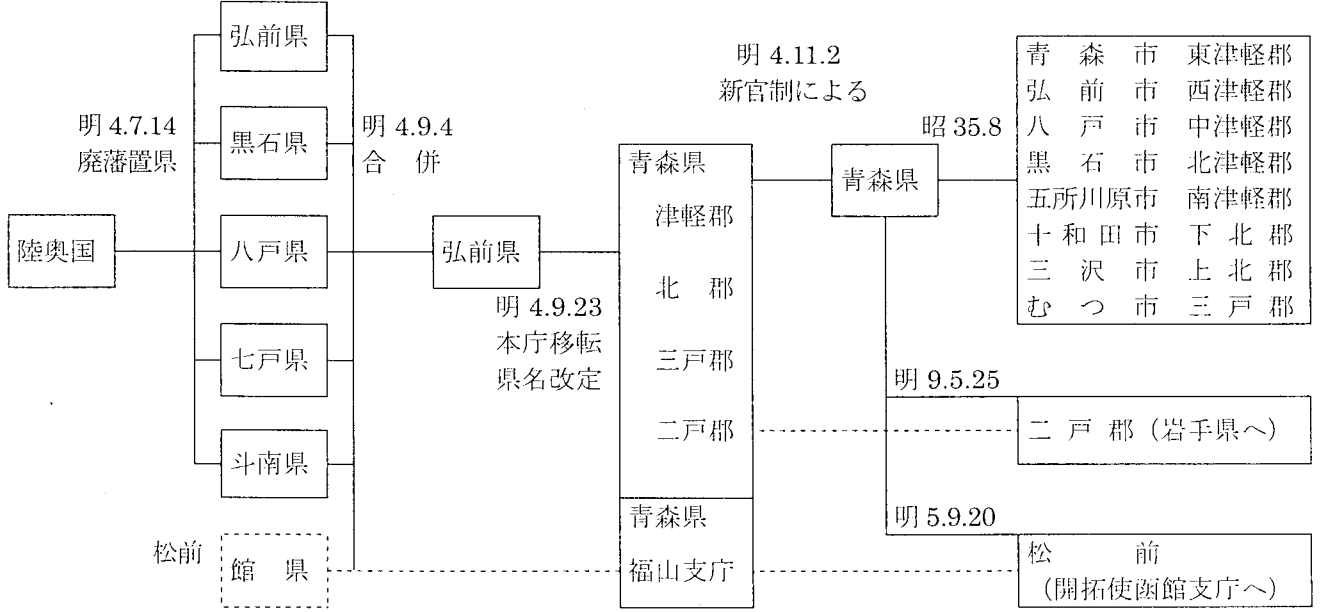
当時の青森県は、北海道渡島半島（館藩＝旧松前藩）の一部と、南部地方の二戸郡を含んでいた。しかし交通の不便さや歴史的背景などを考慮して、前者は明治5年9月に北海道開拓使へ、後者は明治9年5月に岩手県へ移管され、現在の県域が確定した。

行政区画については明治6年3月に大小区制が布かれ、県下は10の大区と72の小区に分画された。この制度は明治11年10月に廃止され、郡区町村編成法が施行された。このとき津軽郡と北郡が分割されて、県内は8郡となった（北津軽郡・南津軽郡・中津軽郡・西津軽郡・東津軽郡・下北郡・上北郡・三戸郡）。

明治22年4月には市制・町村制が施行され、近代的行政区画による市町村が誕生した。江戸時代以来の835町村が整理され、5町165村に統合された。当初は弘前だけが市制を布いたが、明治31年4月に青森が、昭和4年4月に八戸が、それぞれ市制へ移行した。

戦後、地方自治法が施行されると、市町村の行政力を高めるために町村合併促進法が公布され、新たに5市が誕生した。昭和37年10月に東津軽郡野内村が青森市に編入されて合併は一段落し、この時点で8市31町28村に編成された。その後3村が町制に移行したので、現在は8市34町25村となっている。

青 森 県 の 変 遷



2 市町村変遷一覽

(平成13年10月1日現在)

年 月 日	市	町	村	計	東 津 軽 郡		西 津 軽 郡		中 津 軽 郡		南 津 軽 郡		北 津 軽 郡		上 北 郡		下 北 郡		三 戸 郡	
					町	村	町	村	町	村	町	村	町	村	町	村	町	村	町	村
明治22年市制町村 制施行時	1	5	165	171	1	24	1	19	-	16	1	27	-	23	-	16	-	9	2	31
大 正 元 年	2	10	158	170	-	23	2	18	-	16	1	28	1	22	3	13	1	8	2	30
昭 和 元 年	2	21	147	170	1	22	3	17	-	16	4	25	3	20	3	13	2	7	5	27
昭和28年10月1日 (町村合併促進法 施行時)	3	33	127	163	3	18	3	17	-	16	9	19	5	18	5	11	5	4	3	24
昭和 29. 3. 31	3	33	127	163	3	18	3	17	-	16	9	19	5	18	5	11	5	4	3	24
30. 3. 31	6	28	52	86	3	5	3	6	-	3	6	4	4	3	4	8	5	4	3	19
31. 3. 31	6	30	38	74	3	5	3	5	-	3	6	3	4	3	5	7	5	4	4	8
32. 3. 31	6	30	35	71	3	4	3	5	-	3	6	3	4	2	5	7	5	4	4	7
33. 3. 31	6	30	34	70	3	4	3	5	-	3	5	3	4	2	6	6	5	4	4	7
34. 3. 31	7	32	30	69	3	4	3	5	-	3	5	3	4	2	7	4	5	4	5	5
35. 3. 31	8	30	30	68	3	4	3	5	-	3	5	3	4	2	7	4	3	4	5	5
36. 3. 31	8	31	29	68	3	4	3	5	1	2	5	3	4	2	7	4	3	4	5	5
38. 3. 31	8	31	28	67	3	3	3	5	1	2	5	3	4	2	7	4	3	4	5	5
39. 3. 31	8	32	27	67	3	3	3	5	1	2	5	3	4	2	8	3	3	4	5	5
44. 8. 1	8	33	26	67	3	3	3	5	1	2	5	3	4	2	9	2	3	4	5	5
55. 5. 1	8	34	25	67	3	3	3	5	1	2	5	3	4	2	9	2	3	4	6	4

資料 県市町村振興課「市町村事務要覧」

3 市町村の廃置分合境界変更

(平成12年度)

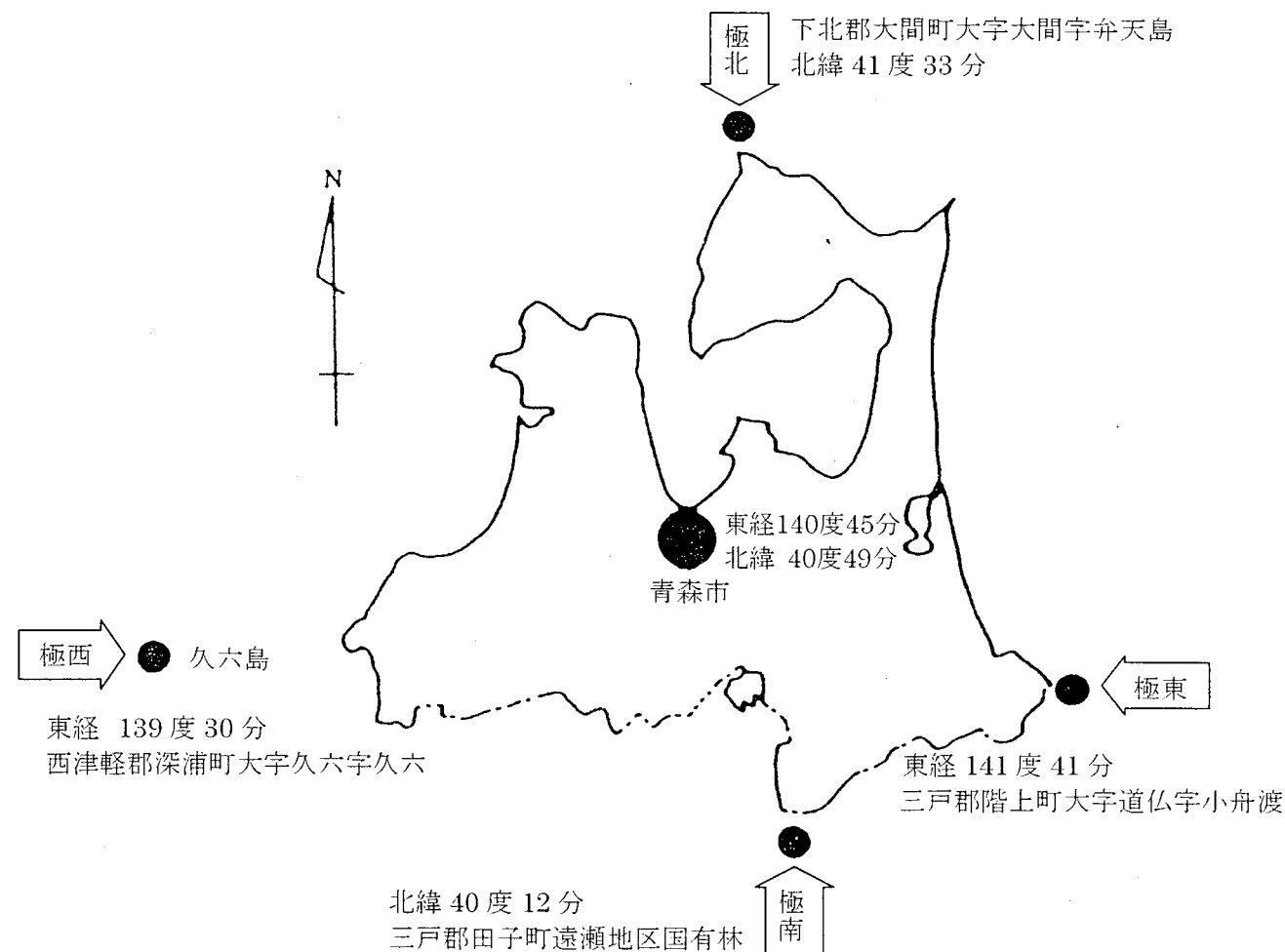
新市町村	合併施行 後の人口	変更後の 面積	施行年月日	合併形式 境界変更	県議会 議決年月日	合併関係市町村	
						市町村名	合併施行時の 国調人口
東北町	変動なし	k m ² 207.23	平成7.12.1	境界変更	平成7. 10. 23	天間林村	変動なし
天間林村	〃	202.59	7.12.1	〃	平成7. 10. 23	東北町	〃

資料 県市町村振興課

4 位 置

本県は、本州の最北端にあり、北は津軽海峡を隔てて北海道と対し、南は秋田、岩手の両県に接している。東は太平洋、西は日本海に面し、三面海に囲まれている。

本県とほぼ同じ緯度に位置する世界の都市には、ニューヨーク、マドリード、イスタンブール、北京等がある。



資料: 県立郷土館

5 地 勢

本県の地勢は、中央山地、西部山地、津軽半島脊梁山地、下北半島山地、東部丘陵地、津軽平野、青森平野としてみる事ができる。

① 中 央 山 地

奥羽地方の脊梁をなす奥羽山脈は、県内中央部の山地を形成し南北に走っている。那須火山脈に属する八甲田山脈及び十和田火山群は、この山地に位置している。八甲田火山群は、駒ヶ峯、乗鞍岳、赤倉岳の諸山岳が密集し、その南に十和田火山群がある。十和田湖は十和田火山の陥没によって形成された山岳地の一明鏡となり、優雅な趣を添え八甲田火山群を加えて国立公園となっている。

② 西 部 山 地

秋田県の出羽山地及び丘陵地の北に互して、本県との県境において1,000メートル内外の標高を示し、一部は西津軽郡の山地及び丘陵地となり、大戸瀬に至っている。また他の一部は中津軽郡から南津軽郡に亘る県境の山地を形成している。これらの山地及び丘陵地を縫って追良瀬川、赤石川、中村川及び岩木川等が流れ、溪谷を刻んでいる。鳥海火山脈に属する岩木山は、本山地の東北部にそびえ立ち、津軽平野の西にその威容を表している。

③ 津 軽 半 島 脊 梁 山 地

この脊梁山脈は、半島を南より北へと走り、十二岳、大倉岳、袴腰岳、四つ滝山の諸山が重畳し、その東西及び南の三翼には丘陵地が発達している。

④ 下 北 半 島 山 地

下北郡の首部には山岳が重畳し、奥羽山脈の最北端部をなしている。この山地に那須火山脈に属する恐山火山が噴出し、本山地の東半部を占めている。その外輪山である大尽山は、本半島最高の山嶺となっている。大作山、芦沢岳、袴腰山、目滝山等は西半部に各南北に連なり、山岳地を形成している。これら山岳地は本半島の西岸において直ちに津軽海峡に臨み急崖をなしている。半島の首と尻屋岬との中間には田名部低地があり、南北に細長い半島頸部とを結んでいる。

⑤ 東 部 丘 陵 地

下北半島の頸部より十和田、八戸に及ぶ東部地域は、中央山地の東翼にも達する丘陵地であり、その間の低地に小川原湖等の湖沼が存在している。馬淵川、五戸川、奥入瀬川等はこの丘陵地を東流している。この東部丘陵地は本邦有数の馬産地で種馬牧場となっていたが今日では昔日の面影はない。

⑥ 津 軽 平 野

中央山地、西部山地及び津軽半島脊梁山地によって囲まれた岩木川流域は、肥沃な津軽平野をなしている。岩木川河口に十三湖を擁し下流一帯は泥炭地を形成している。津軽平野は米穀産地として有名であるばかりでなく、りんご産地として全国的に著名である。平野の北部の西縁には七里長浜の砂丘地帯があり、単調な海岸線をなしている。

⑦ 青 森 平 野

青森市を中心として中央山地の北端である夏泊半島脊梁地との間に盆地周緩平野の一部とみなされる平野であって青森県の心臓部ともされている。

資料 県工業振興課

6 地 質

地形は地質と密接な関連性がある。各山地は古生層、花崗岩、新第三紀及び火山岩等の堅硬な岩石からなり丘陵地は洪積層及び段丘堆積物で被われ、その間に存する溪谷の底に新第三紀層の露出をみせている。平地は河川の堆積物及び砂礫粘土からなっている。津軽平野は広大な沖積層である。

地 質 年 代		主 要 堆 積 岩 類	地 下 資 源
第四紀	完新世	砂礫 粘土 火山灰	砂鉄 褐鉄鉱 泥炭 天然ガス 粘土類
	更新世	砂礫 粘土 火山灰 浮石	亜炭 砂鉄 珪藻土 ベントナイト
新 第 三 紀	鮮新世	浮石質凝灰質砂岩 未凝固砂岩浮石 未凝固泥炭 泥岩 集塊岩 凝灰岩 砂岩	亜炭 カオリン 石油 天然ガス 珪藻土 褐炭 ゼオライト
	中新世	硬質頁岩 砂岩 板状泥岩 凝灰岩 緑色凝灰岩 角礫凝灰岩 砂岩 頁岩 集塊岩 礫岩 濃緑色砂質凝灰岩 硬質凝灰岩 角礫凝灰岩	海緑石 マンガン鉱 硫化鉱 水銀鉱 石炭 金銀鉱 銅鉱 亜鉛鉱 方鉛鉱 ベントナイト 絹雲母 酸性白土 苦灰岩 重晶石 ゼオライト クリストバライト
先 第 三 紀	古生代	粘板岩 珪岩 砂岩 石灰岩 輝緑凝灰岩 ホルンフェス	石灰石 大理石 珪石 磁鉄鉱 金銀鉱

資料 県工業振興課

7 主 な 山 岳

名 称	標 高	所 在 市 町 村	名 称	標 高	所 在 市 町 村
	m			m	
岩 木 山	1,625.0	岩 木 町	田 茂 菰 岳	1,324.0	青 森 市
大 岳	1,584.0	青 森 市・十和田湖町	※ 赤 倉 岳	1,298.0	十和田湖町
高 田 大 岳	1,552.0	〃 〃	(南八甲田)		
※ 井 戸 岳	1,550.0	青 森 市	前 嶽	1,251.7	青 森 市
※ 赤 倉 岳	1,548.0	青 森 市・十和田湖町	向 白 神 岳	1,250.0	深 浦 町・岩 崎 村
(北八甲田)			雛 岳	1,240.3	青 森 市
櫛 ケ 峯	1,516.0	黒 石 市・平 賀 町	白 神 岳	1,235.0	深 浦 町・岩 崎 村
(上 岳)			石 倉 岳	1,202.0	青 森 市
小 岳	1,478.0	青 森 市・十和田湖町	南 沢 岳	1,198.8	黒 石 市
乗 鞍 岳	1,449.0	十和田湖町	逆 川 岳	1,183.4	青 森 市
駒 ケ 峯	1,416.3	青 森 市・十和田湖町	戸 来 岳	1,159.0	新 郷 村・十和田湖町
硫 黄 岳	1,360.2	青 森 市	(三 ツ 岳)		
櫛 ケ 峯	1,342.0	黒 石 市	尾 太 岳	1,083.4	西 目 屋 村
(下 岳)			十 和 田 山	1,053.8	十和田湖町
横 岳	1,339.4	青 森 市・黒 石 市			

資料 国土交通省国土地理院

注：※は標高数値確認不能

8 主 な 河 川

名 称	流路延長	水 源 地	流 末 地	名 称	流路延長	水 源 地	流 末 地
馬淵川	142.4km	岩手県	八戸市	浅瀬石川	44.8km	平賀町	藤崎町で岩木川へ合流
岩木川	101.6	西目屋村	市浦村	平川	40.6	碓ヶ関村	" "
新井田川	78.1	岩手県	八戸市	熊原川	37.0	田子町	三戸町で馬淵川へ合流
奥入瀬川	70.7	十和田湖町	百石町	坪川	35.9	天間林村	天間林村で高瀬川へ合流
高瀬川	63.7	七戸町	六ヶ所村	浅水川	35.0	三戸町	八戸市で馬淵川へ合流
五戸川	50.7	新郷村	八戸市	十川	35.0	黒石市	五所川原市で岩木川へ合流
中村川	44.9	岩木町	鱒ヶ沢町	追良瀬川	33.7	深浦町	深浦町
赤石川	44.6	鱒ヶ沢町	"	堤川	32.6	青森市	青森市

資料 県河川砂防課

9 主 な 湖 沼

名 称	面 積 km ²	所 属 また は 関 係 市 町 村
小川原湖	62.16	上北町
十和田湖	61.02	〔青森・秋田〕境界未定（十和田湖町小坂町）
十戸湖	18.06	市浦村
鷹架沼	5.65	六ヶ所村
尾駁沼	3.58	"
宇曽利山湖	2.66	むつ市
市柳沼	1.69	六ヶ所村
姉沼	1.56	上北町
田面木沼	1.51	六ヶ所村
田光沼	1.16	車力村

資料 国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」

10 主 な 島

この島については概要である。

名 称	所 在 地	位 置		周 囲	陸地との距離
		東 経	北 緯		
		度分	度分	km	m
湯の島	青森市浅虫	140.52	40.92	1.2	630
茂浦島	東津軽郡平内町茂浦	140.01	40.57	1.4	540
弁天島	西津軽郡深浦町	140.00	40.45	0.53	250
大間弁天島	下北郡大間町大間	140.54	41.33	2.73	218
鯛島	" 脇野沢村	140.48	41.08	0.42	1,000
弁天島	" 佐井村	140.51	41.21	0.52	120
大島	東津軽郡平内町夏泊	140.58	41.04
久六島	西津軽郡深浦町大字久六字久六	139.30	40.30

11 各省庁別所管海岸延長

(平成11年度末現在)

所管別	区 分	海 岸 線 総 延 長 (m)	海 岸 保 全 区 域 要 保 全 延 長 (m)	海 岸 保 全 区 域 指 定 済 延 長 (m)	建設省直轄工事延長(m)
国 土 交 通 省 河 川 局		394,765	255,269	212,074	内 28,423
国 土 交 通 省 港 湾 局		118,566	55,268	53,900	
農 林 水 産 省 農 村 振 興 局		21,181	21,181	20,981	
水 産 庁		210,697	125,640	120,912	
計		745,209	457,358	407,867	内 28,423

資料 県監理課「県土整備部事業概要」

注：農村振興局に水産庁との320メートルの重複がある。

12 市 町 村 別 面 積

(平成12年10月1日)

市 町 村 番 号 ・ 名	平成12年面積 (km ²)	市 町 村 番 号 ・ 名	平成12年面積 (km ²)
02 青 森 県	9,606.33	380 北 津 軽 郡	(542.12)
201 青 森 市	692.39	381 板 柳 町	41.81
202 弘 前 市	273.81	382 金 木 町	(125.97)
203 八 戸 市	213.97	383 中 里 町	151.63
204 黒 石 市	216.96	384 鶴 田 町	46.38
205 五 所 川 原 市	(166.86)	385 市 浦 村	111.75
206 十 和 田 市	316.79	386 小 泊 村	64.58
207 三 沢 市	119.97	400 上 北 郡	(1,652.81)
208 む つ 市	245.88	401 野 辺 地 町	81.60
300 東 津 軽 郡	652.62	402 七 戸 町	134.64
301 平 内 町	216.92	403 百 石 町	21.44
302 蟹 田 町	116.39	404 十 和 田 湖 町	(371.81)
303 今 別 町	125.26	405 六 戸 町	84.06
304 蓬 田 村	80.59	406 横 浜 町	126.53
305 平 館 村	48.19	407 上 北 町	119.48
306 三 厩 村	65.27	408 東 北 町	207.23
320 西 津 軽 郡	1,085.61	409 天 間 林 村	202.59
321 鱒 ケ 沢 町	342.99	410 下 田 町	50.44
322 木 造 町	120.07	411 六 ケ 所 村	252.99
323 深 浦 町	315.19	420 下 北 郡	1,168.79
324 森 田 村	24.12	421 川 内 町	323.66
325 岩 崎 村	173.58	422 大 畑 町	235.59
326 柏 村	14.32	423 大 間 町	52.01
327 稲 垣 村	33.17	424 東 通 村	294.36
328 車 力 村	62.17	425 風 間 浦 村	69.58
340 中 津 軽 郡	496.37	426 佐 井 村	135.00
341 岩 木 町	146.25	427 脇 野 沢 村	58.59
342 相 馬 村	103.54	440 三 戸 郡	1,060.53
343 西 目 屋 村	246.58	441 三 戸 町	151.55
360 南 津 軽 郡	700.85	442 五 戸 町	122.14
361 藤 崎 町	22.01	443 田 子 町	242.10
362 大 鰐 町	163.40	444 名 川 町	83.45
363 尾 上 町	18.87	445 南 部 町	29.58
364 浪 岡 町	132.13	446 階 上 町	93.87
365 平 賀 町	221.61	447 福 地 村	40.18
366 常 盤 村	15.19	448 南 郷 村	91.13
367 田 舎 館 村	22.31	449 倉 石 村	55.68
368 碓 ケ 関 村	105.33	450 新 郷 村	150.85

- 資料 1. 国土交通省国土地理院「平成12年全国都道府県市区町村別面積調」
 2. 十和田湖の水面は、境界未定のため含まない。
 3. 境界未定()は県市町村振興課

13 地 目 別 民

(平成13年度)

区 分		県					計		市	
		非課税地積		評価総地積	法定免税点		法定免税点	非課税地積		
					未満のもの		以上のもの			
		(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)	(ヘ)	(イ)		
地 目										
田	一般田	27,233,433	884,207,945	39,588,022	844,619,923	11,136,097				
	介在田等	805,835	3,662,078	23,340	3,638,738	435,441				
畑	一般畑	33,227,492	722,027,184	82,232,355	639,794,829	7,399,006				
	介在畑等	368,811	9,343,146	185,633	9,157,513	202,088				
宅	住宅小規模		84,136,747	5,585,023	78,551,724					
	用地一般		96,991,392	1,124,730	95,866,662					
	商業地等		90,305,533	150,057	90,155,476					
地 計		29,782,009	271,433,672	6,859,810	264,573,862	17,806,458				
塩 田										
鉱 泉 地		3,676	3,191	317	2,874	1,955				
池 沼		83,009,642	724,778	223,040	501,738	365,368				
山	一般山林	2,669,443,348	1,520,323,419	184,903,880	1,335,419,539	326,946,590				
	介在山林		9,968		9,968					
牧 場		34,640,070	26,380,726	315,815	26,064,911	3,747,182				
原 野		191,653,382	420,143,665	68,816,529	351,327,136	79,485,339				
雑	ゴルフ場の用地	1,329,786	10,165,065		10,165,065	592,452				
	遊園地等の用地	231,228	240,049		240,049	133,769				
種	鉄軌道用地	998,808	13,194,171	48,175	13,145,996	156,945				
地	その他の雑種地	171,188,598	66,215,499	8,841,582	57,373,917	27,202,332				
計		173,748,420	89,814,784	8,889,757	80,925,027	28,085,498				
そ の 他		2,295,206,324				615,905,005				
合 計		5,539,122,442	3,948,074,556	392,038,498	3,556,036,058	1,091,516,027				

資料 県市町村振興課「平成13年度固定資産の価格等の概要調書（土地・家屋）総括表及び平成13年度提示平

有 地 面 積

(単位：m²)

計			町 村			
評価総地積	法定免税点 未満のもの	法定免税点 以上のもの	非課税地積	評価総地積	法定免税点 未満のもの	法定免税点 以上のもの
(ロ)	(ハ)	(ロ) - (ハ)	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ロ) - (ハ)
272,608,761	14,163,884	258,444,877	16,097,336	611,599,184	25,424,138	586,175,046
2,909,378	21,218	2,888,160	370,394	752,700	2,122	750,578
206,313,531	23,269,473	183,044,058	25,828,486	515,713,653	58,962,882	456,750,771
6,693,574	137,855	6,555,719	166,723	2,649,572	47,778	2,601,794
53,939,876	2,367,096	51,572,780		30,196,871	3,217,927	26,978,944
38,295,305	204,977	38,090,328		58,696,087	919,753	57,776,334
54,140,101	32,873	54,107,228		36,165,432	117,184	36,048,248
146,375,282	2,604,946	143,770,336	11,975,551	125,058,390	4,254,864	120,803,526
1,528	134	1,394	1,721	1,663	183	1,480
163,280	68,221	95,059	82,644,274	561,498	154,819	406,679
334,192,921	39,875,898	294,317,023	2,342,496,758	1,186,130,498	145,027,982	1,041,102,516
9,508		9,508		460		460
1,821,928	6,614	1,815,314	30,892,888	24,558,798	309,201	24,249,597
147,854,891	22,544,162	125,310,729	112,168,043	272,288,774	46,272,367	226,016,407
2,634,844		2,634,844	737,334	7,530,221		7,530,221
			97,459	240,049		240,049
4,854,359	139	4,854,220	841,863	8,339,812	48,036	8,291,776
28,680,188	2,761,562	25,918,626	143,986,266	37,535,311	6,080,020	31,455,291
36,169,391	2,761,701	33,407,690	145,662,922	53,645,393	6,128,056	47,517,337
			1,679,301,319			
1,155,113,973	105,454,106	1,049,659,867	4,447,606,415	2,792,960,583	286,584,392	2,506,376,191

均価額